

# 新盛里山耕流塾

調査団体名	新盛里山耕流塾	団体代表者名	鈴木 智
設立年	2008(平成20)年4月	対応してくれた人の名前	鈴木 智
団体URL	<a href="http://sinmori.exblog.jp/">http://sinmori.exblog.jp/</a>		
活動拠点	豊田市新盛町(すげの里)	調査員	浜口美穂、蜂須賀功
取材日	2014年12月13日	レポート作成者	蜂須賀功

## 活動内容

「子どもの頃にあった美しい里山にしたい！次世代を担う子どもたちや孫たちに引き継ぎたい！」という想いから新盛里山耕流塾は始まる。耕流塾の「耕」は、里山の再生と人材交流(人の発掘)の2つの意味がある。耕流塾の経緯と現在の活動内容は次のとおり。

### ●裏山(ら)しい暮らしの会(平成18年4月)

手入れがされなくなり荒れてしまった裏山を再生しようと、新盛自治区の活動として「あすけ新盛裏山塾活動」がスタートする。(新盛里山耕流塾の前身と言える活動)

### ●新盛里山耕流塾がスタート(平成20年4月)

地元住民を主体とする実行委員会を発足。地元住民が講師となり、都市住民との共同作業により、年間をとおして里山の魅力を体感できる耕流塾を開塾する。豊田市との共同事業。

### ●豊田市里山くらし体験館「すげの里」のオープン(平成23年5月)

豊田市足助支所が有識者と地元住民で構成される里山耕検討委員会を設置し、21世紀の新しい里山づくりと暮らしの実現を図るための里山と都市との交流(耕流)プログラムと拠点施設の検討を行い、その拠点施設として「すげの里」がオープンする。

### ●平成25年度の耕流プログラム

- ・旬裁食講座(11回)
- ・もりの里☆市民農園(田11区画、畑15区画)
- ・そばづくり講座(7回)
- ・トヨタ自動車労働組合農業体験講座(10回)
- ・そば打ち体験(3回)
- ・石窯活用講座(7回)
- ・山遊びコース(4回)
- ・その他の講座(ホテル観賞会、さつまいも植え、芋ほり体験、もちつき大会など)

## キャッチフレーズ

エコでおしゃれな 21世紀の里山暮らし

## 会のモットー(何を大切にしているか)

田舎の風景はどこも同じで、やっていることも同じだと思う。ここがいいと言ってくれる人は、その地域の人に惹かれてここにくると思う。「人とのつながり」を大切にしていきたい。

また、塾の運営に際しては、あまり無理をせず、ちょっとだけ無理をするように心がけている。その分だけ前進する。

## 設立から現在に至るまで変化したこと

### ●人との交流の楽しさ、大切さを知った。

設立当初は里山を再生できればいいと考えていたが、活動を通じて人と人との交流の楽しさ、大切さ、奥深さがわかった。場所を整備しても、もう一度来たい、もう一度あの人に会いたい、あそこに行けばあの人に会えることが大事である。

### ●塾以外の地域の人々の意識が変わった。(相乗効果があった)

最初は自治区の活動として立ち上げたが、地域の人になかなか理解してもらえなかった。塾の活動を重ね、耕作放棄地が田んぼになり、里山が徐々に再生されてくると、活動場所の隣の人にも自ら耕作したり、間伐するなど、塾以外の地域の人々がやる気になり、意識が変わってきた。

## 連携している団体・専門家・自治体など

豊田市、トヨタ自動車労働組合、千年ゼミ

山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など)

●耕作放棄地が美しい田畑に(耕作放棄地の解消)

耕作放棄地を市民農園として使用したことにより、市民農園の周りの土地所有者も耕作をするようになり、耕作放棄地の割合が80%から30%に激減した。(30%分は一人の都市在住者の所有で、現在、借りて再生する話を進行中)

●定住者が増加

耕流塾をきっかけにUターン(都市部からの移住者)が4世帯ある。Uターンの世帯もあり、新盛地区では人口が増加し、子どもたちの元気な声がいつでも聞こえるようになった。Iターンの人は、もともと田舎での暮らしに関心があったかもしれないが、耕流塾により目覚めたのかもしれない。あるIターンの方から「私はあなた(鈴木代表)がいるからここに来ました」と言われた時はうれしかった。日本中、里山の風景はどこでも同じかもしれないが、そこにいる「人」に導かれてくることがわかった。これからも、人と人のつながり、出会いを大切にしていきたい。

現在直面している課題

塾の中心メンバーの年齢は60歳以上がほとんどで、若いメンバーがあまりいない。

今後やってみたいこと

あまりに忙しくて今後のことを考える余裕がなく、ちょっと息切れしている感じである。今後は講座数を減らして、中身を濃いものにしていきたい。

将来は、耕流塾なしでも、地域がやっていける仕組みになることが一番理想である。現在はその手段が見つからないから耕流塾をやっている。もし、耕流塾以外に良い手段が見つければ、耕流塾はいつやめてもいい。

チームオリジナルの質問

<質問内容> 行政(豊田市)との関係は?

<答え>

●負担金をもらっている。

耕流塾の講座は、豊田市との協働事業である。講座参加者からは会費をいただいているが、それだけではやっていけないので、豊田市から負担金をいただいて運営している。本当は、会費だけで賄いたいのが現状である。

●人としてつきあう。

行政担当者は数年で代わるが、どの人も始めはかたいが、付き合っていくうちに丸くなっていく。担当を離れても耕流塾に来てくれる人もあり、やはり、人としてお互いを認め合いながら、真剣に付き合うことが大切である。私は、行政担当者だけでなく、耕流塾参加者全員、大人から子供までみんなと真剣に付き合っている。

その他、取材者から伝えたいこと

●無いものは自分で作る。

すげの里近くの水路にある小水力発電機、バイオガス装置、ちょっとした建屋など既製品でない物は、どんどん耕流塾のメンバーで作っています。

●すげの里はすげえエコです。

すげの里は、自給自足によるかつての里山暮らしを参考に、エコで自然にやさしい循環型の暮らしを意図して、薪ボイラーや薪ストーブ、太陽光発電などを導入しています。里山暮らしの知恵と技を学び、交流や研修の場として活用でき、会議室、調理室のほか囲炉裏のある談話室や簡易宿泊部屋もあります。

●近くにおしゃれなカフェ

活動拠点施設「すげの里」の近くにおしゃれなカフェ(ganga)がある。木曜日から日曜日、朝9時から夕方5時半まで営業している。鈴木代表の奥さまが作っています。ランチもあり、是非お立ち寄りを！おすすめですよ。

写真



薪ストーブの前での取材の様子



石窯活用講座の様子



バイオガス装置の説明をする鈴木さん



すげの里



移動式の石窯と薪ボイラー



カフェ ganga